

SSH 3年目に見えてきたこと

ノートルダム清心学園清心女子高等学校のSSH研究開発事業は、指定の3年目を迎え、積み重ねてきた研究成果が少しずつ現われ始め、校内に活気が見られるようになりました。

「女性の科学技術分野での活躍を支援できる教育モデルの構築」という課題に即した研究と実践に対して、生徒たちは積極的に取り組む姿勢を見せるようになりました。特に、昨年夏、横浜で行われた「科学の甲子園」といわれる全国SSH生徒研究発表会で**科学技術振興機構理事長賞**を受賞し、高い評価を得たことは、研究に直接携わった生徒たちのみならず、校内全員の大きな喜びとなり、励ましとなりました。

今年度新たな取り組みとして「国際性の向上」を取り入れ、国際的な研究の場においても力が発揮できる生徒の育成を目指しました。長年にわたり力をそそぎ、成果を挙げてきた英語教育を科学的な分野でも生かすよう研究し、科学英語の学習や、英語による講義を実施し、英語による質疑応答を経験する機会を得ました。また、今年度末に実施する第3回「ボルネオ研修旅行」では、国立サバ大学（マレーシア）での研究発表をする計画です。

今後の課題の一つとして、研究成果の地域への普及があります。清心女子高等学校は、倉敷市二子という田園地域にあります。生徒たちが学んだこと、得た知識などを紹介する機会を設けて理解を得ると同時に、生徒たちが自身で自分たちの研究が真に生きているものであることを実感する機会を設けなければならないと考えています。また、校内においては、教職員全体が、広い視野と研究心を持ち、生徒と共に伸びるSSHであるよう願っています。

この間、指導助言に当たってくださいました運営指導委員の先生方、また、派遣元である諸大学、文部科学省、科学技術振興機構（JST）の皆様には厚く御礼を申し上げます。

2009年3月31日

学校法人ノートルダム清心学園
清心女子高等学校
校長 小谷 恭子